

# なかよし

てんどうちゅうぶしょうがっこう  
天童中部小学校

いちようがくねいだより  
いちよう学級だより

R5.2.13

No. 30

## 自分でつかんだ自信の先に広がる世界

冬になり、体育でなわとびの学習に取り組んでいます。Aさんは、はじめはなわとびに苦手意識があり、みんながなわとびをしに行っても、教室に残っていることがありました。何回目かのなわとびの時間、仲良しのBさんから「一緒に大縄跳ぼうよ。」と誘われました。そこで初参加。誘ってくれたBさんや、他の友達と一緒に20回以上大縄で跳ぶことができました。

少し前向きな気持ちが出てきたAさんは、短縄の前跳びの練習にも取り組み始めました。昨年は、2, 3回だった前跳びですが、ある日、「5回跳べた！」と喜ぶ声が上がりました。その後、休み時間にも「ちょっと縄跳びやってくる。」と練習に励むAさんの姿が見られるようになりました。

そして、次の週の体育の時間、「13回跳べたぞー！！」と顔を輝かせながら大興奮で報告するAさん。次の日には、20回、さらに次の日は37回と、どんどん記録を伸ばしていきました。汗を光らせながらの「おれ、やればできるんだ！」の言葉に、Aさんが自分で自分の成長を実感し、自信をつけたことを感じました。

その週のいちようタイムでは、“昔の遊びを楽しもう。”という内容で、すごろくやカルタ、竹馬や缶ぽっくりなどから自分で選んで活動する時間がありました。普段は、違う教室に移動することや体を動かす活動には消極的なAさんでしたが、缶ぽっくりと竹馬に挑戦し、楽しそうに活動していました。

縄跳びの学習を通してついた「できるんだ」という自信が、「やってみよう」という意欲につながったのでしょう。先生や友達から認められると同時に、何より自分で自分の成長を実感することをついた自信が、自分の可能性・自分の世界を広げていく原動力になることを感じた出来事でした。

